

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

金正日総書記、新設の南浦ガラス瓶工場を訪問

2011年1月12日発の『朝鮮中央通信』によると、金正日総書記が新設された南浦ガラス瓶工場を訪問した。これは、今年初めて報じられた経済分野の視察になる。

2011年2月4日付『朝鮮新報』によれば、同工場は2009年に建設が始まり、わずか1年で完成された。原料の投入から包装および出荷に至るまでのすべての工程がオートメーション・ラインで一体化されており、各用途のガラス瓶を年間数千万本生産できる能力を有しているとのことだ。

北朝鮮で口蹄疫発生

2011年2月10日発の『朝鮮中央通信』によると、2010年末、平壤市寺洞区域で口蹄疫が発生し、現在までに平安南北道、黄海北道、慈江道、江原道など8つの道に伝播し、もっとも被害が深刻なのは、平壤市と黄海北道、江原道だとされている。役牛、乳牛、豚約1万頭に陽性反応が見つかり、数千頭が処理されたとのことだ。

北朝鮮と中国、公安協力合意書に調印

2011年2月18日付『朝鮮新報』によると、朝鮮国防委員会人民保安部と中国公安省の協力に関する合意書が同月13日、平壤で調印された。調印式では、北朝鮮側が朱霜成人民保安部長、中国側から孟建柱公安相が合意書に署名した。

崔永林総理、熙川発電所の建設事業を視察

2011年2月27日発の『朝鮮中央通信』によると、崔永林総理が同月23～24日、慈江道の熙川発電所建設事業を現地視察した。総理は、竜林ダム、水路トンネル、1号、2号発電所、発電機室の建設場などを見て回り、金正日総書記の現地での教えの貫徹状況と工事を進める上で提起される問題を具体的に聴取するとともに、現場で関係者協議会を開き、発電所建設を繰り上げて終えるうえでの懸案が討議された。そのうえで、内閣と委員会、省、中央機関をはじめ関連機関が担当した設備と資材を適時に生産、供給するための具体的な手配が行われた。

北朝鮮で光ファイバー化、全国で第3世代移動通信網を形成

2011年3月3日発の『朝鮮中央通信』によると、北朝鮮

で通信網の光ファイバーケーブル化を完成し、これに基づいて世界先進水準のブロードバンド回線を構築し、全国的な第3世代（3G）移動通信網が形成されたとのことだ。

平壤光ファイバー通信ケーブル工場が国の光ケーブル化を推し進め、通信インフラが完備される中、全国的な光ケーブル化が完成した模様だ。

筆者が訪れた北朝鮮の研究機関に掲示されていたネットワーク概念図によると、IPベースの通信網に電話（PSTN）、移動通信ともに接続されている模様であり、最新技術によってインフラが再構築された形となる。

WIPOが朝鮮の科学者、技術者に発明家賞

2011年3月16日発の『朝鮮中央通信』によると、世界知的所有権機関（WIPO）は、北朝鮮で2010年に開かれた第11回全国発明および新技術展覧会で金メダルを受賞した「不滅の花金正日花の鮮度保存造成物の製造方法」「新しい鉄生産システムの確立」「プレキャスト部材によるコンクリートダムの施工法」に最高発明家賞を授与することを決定した。

平壤で著作権・著作隣接権に関する討論会開催

2011年4月7日発の『朝鮮中央通信』によると、「著作権・著作隣接権に関する民族討論会」が同月6～7日に平壤で開かれた。討論会には、朝鮮著作権事務局、教育、文学・芸術、出版・報道、情報産業の各部門の活動家と訪朝中の世界知的所有権機関（WIPO）関係者、中国、マレーシアの代表が参加した。

討論会では、「朝鮮民主主義人民共和国での著作権および隣接権の最近の発展」「朝鮮民主主義人民共和国での著作権および隣接権保護活動」「著作権および著作隣接権に対する尊重と社会的認識が持つ重要性」「著作権と著作隣接権保護が社会経済および文化の発展に与える肯定的な影響」などのテーマで討論が行われた。

国家品質監督局が国家品質委員会に改編

2011年4月17日発の『朝鮮中央通信』によると、同月15日、朝鮮民主主義人民共和国内閣の国家品質監督局を国家品質監督委員会に改編する最高人民会議常任委員会政令が発表された。

（ERINA調査研究部長 三村光弘）